

国語科における「話すこと・聞くこと」(小学校高学年)の学習指導

―見える化による話し合い方略の指導―

橋本紗希

一 研究の目的

「話すこと・聞くこと」の学習は、音声言語という消えてしまう性質を持つ言語を対象とすることから、子どもも教師も学びを自覚しにくい。そこで、話し言葉を書き言葉にして「見える化」を図ることで、話し合い方を自覚し、話題について深めることのできる子どもを育てたいと考えた。

二 研究仮説

三つの見える化によって、子どもが話し合い方や話題の流れを自覚し、一つの話題をめぐって話し合うことのできる力を身に付けることができるのではないかと考えた。三つの見える化とは、

- (1) 自分の考えの見える化
- (2) 話し合い方の見える化

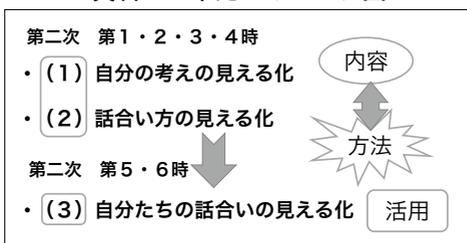
(3) 自分たちの話し合いの見える化である。

三 研究の概要

1. 三つの見える化による単元の構想

第一次は、子どもに問題提起を行い、学習のめあてを持たせ、学習計画を立てる。第二次の第一時から第四時では、「自分の考えの見える化」、つまり「内容の見える化」を図るとともに、「話し合い方」つまり「方法の見える化」を図っていく。内容から方法を見つけることができ、方法から内容を再確認で

資料1 単元のイメージ図



きるという想定である。「自分の考えの見える化」では、情報収集を行ったり、付箋紙にまとめたりする活動を行う。「話し合い方の見える化」では、自作ビデオ^(注二)と自作の文字化シート^(注三)を活用し、よい話し合い方を見つけよう。

第二次第五・六時では、自作教材での学びを活かして、実際に活用を行う時間となる。つまり「自分たちの話し合いの見える化」を図る段階である。付箋紙の活用や話し合いの隊形、振り返りの時間の活動等を工夫した。

2. 自作教材「提案書モデル」について

今回参考とした教材は、光村図書五年「明日をつくるわたしたち」である。話し合いによって明確になった考えを提案書にして書くという複合単元である。しかし、教科書に例示されていた提案書は「地域とのつながりをもと」とする内容であり、子どもの実態とはかけ離れていた。「話す・聞く」は、実際に機能する場面を設定することで、具体的な配慮にも注意が向かうことを考えると、子どもの生活に、より合った内容が必要である。そこで、勤務校のスローガン「あしたかつ子」^(注三)を用いて自作教材を作成した。

資料2は学級の実態に合った自作教材の「提案書モデル」である。「提案するきっかけ」のところは、子どもの現状

に合った係活動に関する問題点を指摘する内容とした。この内容は、話し合いによって明確になった考えをもとにしたという想定である。「先生に許可をもらわないとしてよいかどうか分からない」と「先生に言われなくていい」という問題点を指摘している。子どもの実態を見たとき、このような問題点ならば子どもが話し合いによって合意形成のもと、自力で明確にすることができるであろうと考え、教材作成を行った。想定では、二番の提案内容についても話し合いによって、合意形成を行った上で、一文目のところまで（下線部参照）は、グループで作り上げていかせたいと考えた。

資料2 自作した提案書モデル

自分たちの活動をふり返り、次の活動へ生かそう。	
提案者 橋本紗希(5班) 橋本 上林 武やり 渡邊	
<p>兼高小学校のめあて「考えて工夫する」ことが、5年生はできていないと考える。そこで、「考えて工夫する」子どもになるために、「自分たちの活動をふり返る」ということについて具体的な案を提案する。</p>	
1. 提案するきっかけ	
<p>わたしたちは、係活動を学期ごとに決めて行っている。各学級に必要な係を自分たちで考えて決め、自分たちで行動していくというのだ。しかし、全ての係活動が盛欲的に取り組んでいるとはいえない。そこで、5年A組にアンケートを行い、9・10月の活動回数を調べてみた。運動係のみが8回以上で、それ以外の係の平均は、たった1回だった。運動係は、体育の授業の時に、活動する時間がはっきりと決まっていたが、それ以外の係は、授業で活動する時間は決まっていなかった。先生に許可をもらわないとしてよいかどうか分からないというのが原因の一つだろう。</p> <p>わたしたちが「考えて工夫する」子どもになるためには、先生に言われなくていいという問題点に気付くことが大切ではないだろうか。そのため、自分たちの活動についてふり返りを行うことが必要ではないかと考えた。この考えによって、次のことを提案する。</p>	
2. 提案	
毎週金曜日に係の活動報告を行い、自分たちの活動をふり返ろう。	
<p>わたしたちは、運動会や海の学習が終わると自分たちの活動のふり返りを行い、次の活動に生かしてきた。同じように、係活動でも日々の活動のふり返りをしてはどうだろうか。毎週金曜日の帰りの会に、自分たちで活動した内容を報告し合う。そうすれば、事実をもとに活動をふり返ることができる。また、お互いの活動内容や回数を比べることができ、どんな活動ができるか工夫し合っって高め合うことができるのではないかと。</p> <p>「考えて工夫する」機会には、委員会活動や係活動などがあるが、係活動は、何をどれだけしなくてはいけないという決まりはなく、自分たちの活動回数や活動内容などについて確認し合うことはなかったと、今回改めて気づいた。そこで、「考えて工夫する子どもになるため」という点でできることとして、このことを提案する。</p>	

3. 単元構想

① 単元名 考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう

(小学校第五学年 平成三十年十一月～十二月実践)

学習材 自作教材

参考資料「明日をつくるわたしたち」(光村図書5年)

② 単元目標

○ 学校をよりよくしようと思っていることについて意欲的に話し合ったり解決のための提案書を書いたりしようとする。(国語への関心・意欲・態度)

○ 収集した知識や情報を関連づけ、互いの立場や意図をはっきりさせながら、話し合いポイントを使って計画的に話し合うことができる。(話す・聞く能力)

○ 自分たちの身の回りにある問題について調べ、解決のための提案書を書き方のポイントを使って書くことができる。(書く能力)

○ 言葉から受ける感じや、言葉の使い方について関心をもつことができる。(言語に関する知識・理解)

③ 単元計画(全十三時間)

第一次

第一時 学習全体の見直しをもつ。

第二次

第一時 自分の考えをもつ。

第二・三・四時 話し合い方について学ぶ。

第五・六時 問題点について話し合う。

第七時 決まった問題についての解決方法を話し合う。

第三次

第一時 提案書の書き方について学習する。

第二時 提案書に書く内容を整理する。

第三時 各自で提案書を書く。

第四時 各班で最もよい提案書を選び、推敲してよりよい提案書にする。

第五時 提案書を読み合い、提案書のよかった点を伝え合う。

課外 五年生全体で各クラスの提案書を読み合い、一番高めたいと感じた提案について学年全体で取り組む。

ることですよね?」や「〜ということはどうですか」、「たとえ〜ということですよね」「Aというよりは、Bということですか?」という聞き方などの「話し合い方」を見いだしてきた。

資料6 第二次第3時で子どもが見つけてきた話し合い方の揭示

② たがいの考えについて質問したり答えたりするとき
 く賛成です。(いいところ) + 意見
 たとえば〜ということですよね。(イメージ確認)
 Aというよりは、Bということですか。(より分かりやすく)
 もしも、起り得る可能性な場合は(仮定して)
 たとえば〜ということ。(例・イメージ)

第4時では、ここでも自作ビデオの終末部分を視聴させ、今度は運び手としての話し合い方について学んだ。視聴後、文字化シート③を配付した。
 子どもは、「言い換え」、同じ意見の「集約」などの話し合い方を見出してきた。さらに、司会者としての話し合い方も見いだしてきたため、話し合いポイントとして書き出した。

第二次第4時の子どものまとめ
 一つに意見をまとめる時は、出し合った意見を言いかえて、新しくまとめたり、つまりで「似ている」意見を一つの「同じ」意見にしたりするとよい。また、言葉を短くするとよい。

自作ビデオ教材の視聴後に、教師が文字化して、見える

資料7 第二次第4時で子どもが見つけてきた話し合い方 右(運び手) 左(司会者)

③ 意見を出し合い、一つにまとめるとき
 が似ていると思います。(2つ以上の意見の共通点)
 +理由は(まとめる言葉)
 つまり(今までのこと)にまとめる。()
 言いかえると(言いかえる)

① 話し合いを始めるとき
 について話します。(テーマ)

② 話し合いを進めるとき
 話がずれていませんか?(テーマ)
 〜ということですよ。(確認)

③ 意見を出し合い、一つにまとめるとき
 つまり、短くまとめる。()
 まとめます。

化を図ったことにより、子どもは内容と方法を習得した。次は、活用という段階である。ここまで見える化は、教師によって行ってきたが、「自分たちの話し合いの見える化」は、子どもたち自身がしなくてはならない。

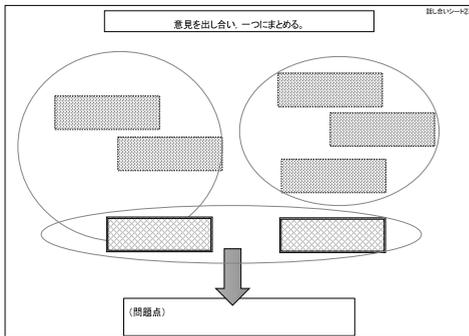
③ 自分たちの話し合いの見える化
 第二次第二時で、子どもらは自作ビデオをもとに、自分の考えを付箋紙に書いて全体で共有するとよいことを見い

資料8 自分の考えを発表する際に用いた話し合いシート①

話し合いシート①				
「子」について考えを出し合う。				
	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
①理由 （ピンク）	[Pink box]	[Pink box]	[Pink box]	[Pink box]
②五年生が具体的にどう考えているか 自分の意見をくわしくするために黄色	[Yellow box]	[Yellow box]	[Yellow box]	[Yellow box]
③提案 （ピンク）	[Pink box]	[Pink box]	[Pink box]	[Pink box]

だしていった。そこで、資料3（前出）で情報を集めたワークシートをもとに、発表する内容を短く付箋紙にまとめた。そして、発表の際にそれらを並べさせるようにした。

資料9 一つにまとめる時に用いた話し合いシート②



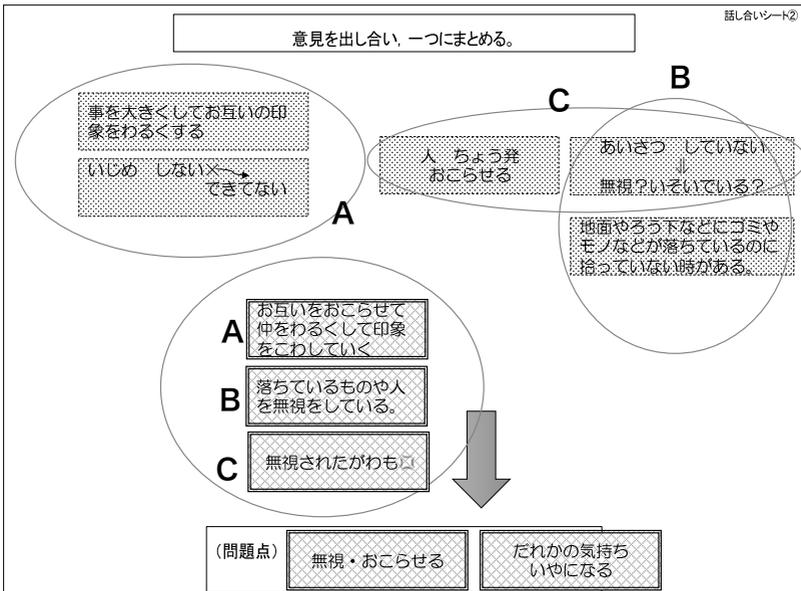
自分の考えを発表するときは、問題点を上の方のピンクの付箋紙（）、その具体の事実を、その下の黄色の付箋紙（）で並べながら発表するようにした。また、一番下のピンクの付箋紙には、問題点をふまえた提案内容を並べて発表した。

そして、質問したり聞いたりする時間をとり、イメージの共有化を図った。その際には、第二次第五時で見つけた話し合いポイントを意識して行っている子どもを称揚した。一つにまとめいく段階では、話し合いシート②（資料9）を用いた。

話し合いの際には、ピンク色の付箋紙に示した問題点や提案内容という「結論」ではなく、黄色の付箋紙に示した「事実」をつけ合やすようにした。子どもは、出された黄色の付箋紙を同様のものは集約し、異なるものは新たな島に位置付けて整理し、まとまりごとにラベリングしながら話し合いを進めていった。その際には、青色の付箋紙（）を用いた。つまり、「自分たちの話し合いの見える化」である。

話し合い後の話し合いシート②（資料10）を用いて説明する。「ことを大きくしてお互いの印象を悪くして、仲が悪くなっている。」と「いじめている人がいる」の共通点をA「お互いを怒らせて仲を悪くしてお互いの印象を壊していく」という青色の付箋紙でまとめた。次に、「あいさつをしていない。急いでいるから。」と「ゴミや物などが落ちていのに拾っていないときがある。」の共通点をB「無視をしたり、拾っていないかったりして、気付かないふりをしてている」という青色の付箋紙でまとめた。「人を挑発して怒らせる」と「あいさつをしていない」の共通点としてC「気持ちを無視しておこらせる」という青色の付箋紙でまとめた。このように、子どもは付せん紙への書き上げを通して「自分たちの話し合いの見える化」を図っていた。その際の話し合いは以下の通りである。

資料10 子どもの話し合い後の話し合いシート②



C 4 多くの意見の「事を大きくしてお互いの印象を悪くして、仲が悪くなっている。」とC2さんの「いじめている人がいる」という意見が似ていると思いました。理由は「お互いを怒らせて仲を悪くしてお互いの印象を壊していく」という点が似ているからです。

C 2 C1さんの「あいさつをしていない。急いでいるから。」という意見とC3さんの「ゴミや物などが落ちていのに拾っていないときがある。」は似ていると思います。理由は、二つとも無視をしたり、拾っていないかったりということは気付かないふりをしているということだから似ていると思います。

C 1 ありがとうございます。他にありませんか？

C 4 C2さんの「人を挑発して怒らせる」と「あいさつをしていない」は似ていると思いました。理由は、どちらも、気持ちを無視された側が腹を立てることだと思ったからです。

次の話し合いは、まとめた青付箋をさらにまとめていく段階である。

C 4 「お互いを怒らせて仲を悪くして印象を悪くする」のはお互いが嫌な気持ちになるし、「あいさつを無視

されたら、無視された側が怒る」となるのと「落ちているものを無視している」のはそれを見た人が嫌な気持ちになるので、この三つは誰かの気持ちが嫌になるという点で似ていると思います。

C 2 この三つの共通点が、「無視・怒らせる」ということなので同じだと思います。

C 1 三つの共通点は「無視・怒らせる」だと思います。理由は、お互いを怒らせて仲を悪くするのは、みんなが仲良くならないので、親切で優しい子が守れていないことだと思ったからです。

このように、三枚の青色の付箋紙（資料十一の四角囲み内）は、合意形成をもとに、「無視・おこらせる」「誰かがいやな気持ちになる」という言葉に整理され、さらに一つのものへと集約されていった。そして、「相手の気持ちを考えず、無視している」という明確な問題点として共通理解が果たされていった。

④ 自分たちの話し合いをもとに書かれた提案書

資料の通り、上記で紹介したグループの子どもが話し合いによって明確にした問題点「相手の気持ちを考えず、無視している」がきちんと示されている。さらにこのグループは、提案内容として「語尾や名前の呼び方など、言葉遣いに気を付けよう。」というものも話し合いによる合意形

成を通して打ち出すことができた。

⑤ 話し合いの振り返りと授業後の子どもの様子

第二次第5・6時の授業終末では、話し合いポイントを活用できたか「全く使わなかった・1回使った・何度も使った」という3段階で振り返り、自分の話し合いを自己評

資料11 子どもの書いた提案書

言葉づかいに気をつけて友達と仲良くすごそう。	
提案者	A児 (2班 A児・B児・C児・D児)
葦高小学校のめあてで、「しんせつでやさしい子」「考えて工夫する子」が、5年生はできないと考える。そこで、「しんせつでやさしい子」「考えて工夫する子」になるために、みんながあいさつをしたり言葉づかいに気を付けたりすることについて具体的な案を提案する。	
1. 提案するきっかけ	
わたしたちは、ふだん必ずあいさつをしている。しかし学校では、最近あいさつをしない人は増えてきた。それに相手にあいさつを返さない人も増えてきた。そこで東館入り口前で西門の登校している生徒を全員ではないが調べてみた。すると、1年生や2年生は、とても元気な声で「おはようございます!」と言って、西門を通っていたが、3年生から6年生などは、無口ななどは分からないが、おじぎすらもしていなかった。仲が悪い人には無視をし、仲が良い人には、あいさつをするのだ。これは自分の都合で生活しているということが原因の一つだろう。	
ぼく達が「しんせつでやさしい子」や「考えて工夫する子」になるためには、相手の気持ちを考えず、無視しているという問題に気付くことが大切であると考えた。この考えにそって、次のことを提案する。	
2. 提案	
語尾や名前よび方など、言葉づかいに気を付けよう。	

価した。振り返りでは、「次、話し合う際には○○の話し合い方を使いたい。」と次時の活動で意欲を高めることができた。また、話し合いをするグループと聞くグループ等の組み合わせをつくり、互いの話し合いを評価できるようにした。聞くグループは、観察した話し合いを振り返り、

話し合いをするグループの中からMVPを決めるようにした。評価の際には話し合いポイントを意識することができるようになった。聞いたグループの子どもも、MVPとなった友達のように「『たとえば』や『〜ということ』を使って質問したり、『つまり』を使ってまとめたりしていきたい。」という今後の話し合いへの高まりが見られた。

第二次第7時の提案内容を話し合う際だけでなく、他の授業や日常生活でも話し合いポイントを使って話し合う様子が見られた。話し合いポイントは学期末まで常掲し、授業や日常生活で活用した子どもを教師が称揚しながら、より活用できるようにしていった。

五 成果と課題

三つの見える化により、話し合う際の内容と方法の見える化、活用時の見える化を図った。子どもは、自分たちの考えが話し合いによって、一つにまとまったという実感を通して、話し合いポイントを活用するよさを自覚し、話し合い方を意識する子どもが増えていった。本単元後の話し合い時には、すぐに多数決をとって決めるのではなく、質問によって互いのイメージを共有し合ったり、新たな言葉に言い換えてまとめたりしていく子どもが多く見られようになった。

本実践は、5年生で身に付けたい話し合いの力に焦点を

当てて行ったが、次学年へのつながりを教師が自覚しておくべきだという課題が見えてきた。各学年の指導事項の系統性を意識して、内容・方法・活用という段階で取り組み、子どもが授業を通して、話し合い方を自覚し、次学年で生かしていく指導が必要である。

本実践は、前勤務校である葦高小学校で行ったものである。

参考文献

- ① 山元悦子「コミュニケーション能力を育てる国語教室カリキュラムの開発―小学5年生における認知・思考の発達特性―」『福岡教育大学紀要 第1分冊 文科編 (58)』2009
- ② 山元悦子『発達モデルに依拠した言語コミュニケーション能力育成のための実践開発と評価』2016 溪水社
- ③ 日本国語教育学会『シリーズ国語授業づくり 話す・聞く―伝え合うコミュニケーション力―』2017 東洋館出版社
- ④ 渡辺弥生『子どもの「10歳の壁」とは何か? 乗りこえるための発達心理学』2009 光文社新書

(注一) 自作のビデオ教材とは、実践時の学年団(学級担任四人)

で作成した動画である。教員で子ども役となり、話し合いを三つの段階(①自分の考えを発表する段階②互いの考えに質問したり、答えたりする段階③意見を出し合い、一つにまとめる段階)に分けて動画とした。

話し合う際のセリフは、見える化の際に用いた文字化シートの内容をもとに作成した。

(注二) 文字化シートは、(注一)で担任が話し合っている内容を文字として見える化を図ったワークシートである。

(注三) 倉敷市立葦高小学校の学校スローガン「あせを流して働く子」「しんせつで優しい子」「たくましく強い子」「考えて工夫する子」である。

(倉敷市立連島西浦小学校教諭)